

花背別所 里山モニタリング調査

～2019 年 6 月～11 月をふりかえって～

日 時：2019 年 6 月 6 日、7 月 8 日、8 月 1 日、9 月 5 日、10 月 3 日、11 月 7 日

場 所：京都市左京区 花背別所

参加者：noi-kyoto12～15 名 林業女子会@京都の皆さん、赤西大輔氏 川勝ユキ氏友人他

花脊の里山モニタリング調査をふりかえる

花脊に在住の「林業女子会@京都」の川勝ユキさん（12 月の NACS-J の指導員講習で指導員資格を取られ本会にも加入頂きました）から依頼を受けて、花脊別所の小さなエリアではありますが植生の調査を始めています。京都大学森里海連環学教育研究ユニットが行っている「森の学び舎」での学びから実践へと足を踏み出す一環です。川勝さんたちは、この「森の学び舎」で学ばれました。学び舎の中心で指導された京都大学の赤西大輔助教も一緒に参加されています。

私達 NPO 法人自然観察指導員京都連絡会は、一つの固定したフィールドを持たずさまざまな場所で観察会を実施していますが、この花脊のような一つの場所でじっくり季節の変わる中で自然を見つめ、自然を考え、深く知るということもやってみたいと思う会員も沢山いましたので、時宜を得た活動になったと言えます。沢山のものを、沢山の場所を見て地元を振り返るグローバルとローカルを備えた観察とあわせて、長い時を見るというものが増えることで、より豊かに自然が捉えられるようになると思えば、ワクワクするような活動です。まさに 3 次元から 4 次元の世界を見つめた観察会への一步となります。

6 月はじめは慌ただしく始まりました。参加者は地元の方や、「林業女子会@京都」の仲間の方、地元小学校の先生、話を聞いてやって来た美山の方などでした。地元の振興や花脊の歴史や文化、農事暦に関わっての自然などをまとめ

発信したいという方向性に合わせる形で、顔合わせの会では心づくしの地元食材のお弁当を頂きました。

最初の調査はどの場所をモニタリングにするかと言う場所設定からです。予定されていた場所を見て、取りあえずこの場所で行こうと言うことになりました。一つは畑の周囲の法面、もう一つは拠点となっている「hanare」の裏山です。幸い林道の下に緩やかな谷があり尾根と谷両方が見られるということで仮決定しました。畑の方は鹿から畑を守るための柵があり、食害がない状態で調査が可能となり上々の場所でした。3 回目の調査からは畑を F(Feald)、山を M-1、谷を M-2 として調査区としました。



畑エリア 8 月



山・谷エリア 8 月

11月までの毎月調査の結果、現時点ではF地区の植物：木本3種、草本119種。M-1M-2地区：木本62種、草本119種が出現しています(シダを除く)。そしてM-2地区では京都府準絶滅危惧種のクリンソウ(サクラソウ科)、シソクサ(シソ科)…再確認を要する、カヤラン(ラン科) コウヤノマンネングサ(シダ)、ミツデカエデ(カエデ科)、要注目種ボタンネコノメソウ(ユキノシタ科)の6種が確認されました。

F地区では希少種ではありませんが、エンレイソウ、キリンソウ、クロバナヒキオコシ、アオイスマレ、オオバギボウシなどが見られ畑の横にしては豊かな植生が見られます。

M-1地区は鹿の食害もありあまり目立ったものは見当たりません。M-2地区の下部は湿性の土壌です。生育するものは希少種6種をはじめチドリノキ、アワブキ、シラキ、アスナロ、オオカメノキ、マルバフユイチゴ、ショウジョウバカマ、ボタンネコノメソウ、ミヤマタニソバ、キタヤマブシ、フタリシズカなどはじめ多くの種が見られます。早春の調査ではまた新たな発見があるのでと楽しみにしています。

(清水)

*詳細植生は別記の一覧を参照ください。



花背小学校の生徒も参加 8月



アカシヨウマ 畑エリア 8月

6か月間調査に参加しての感想 (noi-kyoto 会員より)

～花脊モニタリングに参加して～

人家のすぐそばに、オウレンやエンレイソウ等の山野草が普通に咲いてます。

調査地の畑の周り10m程の間に、雑草と言われる草たちが60種あまりひしめいています。

山地では、ヒルと仲良く？調査です。木々の下には、例会で見に行ったような、フタリシズカやクサアジサイを見たり、緑のきれいな色々なコケ、かわいいキノコもいっぱい見ました。

川勝さん達の熱心さとおもてなしに甘え、楽しい活動をさせていただきました。ありがとうございました。

🍀白石🍀



フタリシズカ 山・谷エリア 8月

“花背” 耳に心地よい地名ですね。京都人では無い私にとっては少し懂れてしまいます。

耳当りはさておき、今回は胃袋を驚掴みにされました。6月の初回に準備された“地産地消具材のお弁当”に始まり、まとめの11月にはサツマイモご飯とおでんに加えて持ち寄り食材による昼食会は満腹・満足でした。地域の方々との交流も含め、次回からも楽しく参加させていただきます。 古結

花背という地名に惹かれて植物モニタリングに参加しました。

6月6日最初の日どんな植物があるのかなとワクワクしているうちに到着。

まず、びっくりしたのは家のすぐ横の土手にセリバオオレン、アカショウマ、池にはクリンソウ、家の前の畑の土手にもエンレイソウ、シシウドと普通山に登らないとみられないものがすぐ近くにあったのです。

山の中に入るとシナノキ、ミツデカエデ、チドリノキ、コハウチワカエデ、ゴマギ、オオカメノキ、シラキ、アワブキとこれまた私の住んでいる京都南部ではあまり見られないものばかりに感激でした。

11月の最後の日、シラキの葉は赤く染まり。畑のクロハナヒキオコシの濃い紫の小さな花がいっぱい咲いていました。

春の花はまだ見ていないので、来年も参加したいと思っています。

出口由美子

今回、初めて1年を通して同じ場所を観察し、どんな植物があるのか？ 季節によってどのような植物がでてくるのかといったことを学ぶ機会を得ました。

といってもまだ来春以降の調査が残っていますので、前半の感想を少し書いてみます。

調査場所は畑の周りと山の2カ所に分けて、何が生えているのかを調べていきました。

畑の周りの植物は夏頃は青々と茂っていたのに、手入れされた秋頃にはそのことによって新たに芽生える植物があることを知り、また山地区では高くそびえる木々やキノコの数々に感嘆しました。もちろんヒルとの攻防もありました。

なんといってもゲンノショウコの濃いピンクの花が秋にはタネをとばし、クルンクルンと反り返った形になっていることに感動！ いえ、新知識ゲット！ この形状がミコシグサと呼ばれる所以だとか…

グルグルと巻いた状態の新芽しか知らないゼンマイが開いた葉はこんななんだと、へえ～！の連呼です。

同じ場所を観察していると植物の成長過程を見ることができ勉強になりました。



今年最後の調査の後にはまとめとして今までに見た植物の名前のチェックなどをしました。

冬の期間は調査もお休み。来春以降、どんなかわいい芽吹きに会えるのか楽しみです。

細川由美子

植物の名前のチェックなどまとめの様子

6～11月までの花脊別所のモニタリングに参加しました。半年間、同じ場所を観察することで、普通の観察会とは違うことがたくさん分かりました。

普通の観察会では、その時期に目立つ植物や動物などが多い観察場所に行き、自然を観察するものです。しかし、モニタリングでは同じ場所を長期間観察するので、同じ植物や動物が季節を通してどのように変化するかを詳しく見ることができました。

例えば、ミゾソバは、夏の間は牛の額（ひたい）のような形をした葉っぱしか見られませんでした。しかし、秋に入ると、つぼみをつけ始め、白とピンク色の花がそのあたりを覆うように咲き始めました。ゲンノショウコも、春の間は葉っぱだけで、どのような花が咲くのか楽しみでした。夏に入ってから花が咲いているのを見ると予想以上に赤紫色が目立っていてとても驚きました。そして、晩秋になると、実がはじめて種が飛んだあとの形が本当にミコシグサという名前通りの形になっているのが見られて、昔の人のネーミングの才に驚かされました。

また、季節によってとても勢いのある植物も分かりました。たとえば、畑地では夏になるとオニドコロや、タチドコロ、ヘクソカヅラなどのつる植物が他の植物を覆うように伸び始めたり、秋になると、ススキ、エノコログサ、チカラシバなどのイネ科の勢いが他の植物を押しよけるくらい凄まじかったり、ムラサキケマン、アオイスマレ、スイバ、ギシギシなどのように、秋に次の春に向けて葉を出して準備していたりするようすをしっかりとこの目で確かめることができました。

山の方では、食用にできるタラノキ、サンショウ、トチノキ、シラキ、カヤ、コシアブラ、アオハダ、ニワトコなどの木が、また生活に使ったであろうミツマタ、ホオノキ、カナクギノキ、シロダモ、オオカメノキ、エゴノキ、ウリハダカエデなどの木が生えていました。昔の人が生活に合わせていろいろな種類の木を植えていったのでしょう。それから、日本海側によく見られるようなタニウツギやツルシキミといったあまり太平洋側ではお目にかかれない植物も見ることができました。

このモニタリングに参加してたくさんの勉強ができて楽しかったです。

細川 幾由

